

第3回青森県社会教育委員の会議 会議概要

日時	令和元年7月1日（月） 10:00～12:00
場所	青森県庁南棟 4階A会議室
出席者	<p>《 委員 》敬称略 7名 吉川 康久 永澤 正己 工藤 貴子 松本 大 廣森 直子 伏見 憲子 岩本 美和 《青森県教育委員会教育長》 和嶋 延寿</p> <p>《 事務局 》 5名 葛西 浩一（生涯学習課長） 小館 孝浩（学校地域連携推進監） 大島 義弘（生涯学習課 企画振興グループ 主任社会教育主事）他2名</p> <p>《 その他 》 3名 伊藤 明德（学校教育課課長代理） 川村 真慶（総合社会教育センター 育成研修課長） 三浦 博明（生涯学習課 地域連携推進グループ 主任社会教育主事）</p>
内容	<p>1 開 会 2 教育長挨拶 3 案 件 （1）調査対象とする施設、調査方法などについて （2）その他 4 閉 会</p>
配付資料	<p>次第・青森県生涯学習審議会委員名簿・座席図 資料1 青森県生涯学習審議会・青森県社会教育委員の会議審議事項について 資料2 実地調査について(案) 資料3-1 実地調査の候補先について【公民館（公民館類似施設を含む）】（案） 資料3-2 実地調査の候補先について【図書館】（案） 資料3-3 実地調査の候補先について【公民館・図書館以外】（案） 資料3-4 実地調査の候補地について【一覧】 資料3-5 実地調査希望調査票 資料4 調査項目について(案) 資料5 調査研究のデザイン(方向性)について 資料6 青森県生涯学習審議会・青森県社会教育委員の会議スケジュール（修正版）</p> <p>〈参考資料〉 1 第2回会議での調査研究に係る意見 2 重点審議事項2の理由書 3 今後の社会教育施設のあり方 （中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興 方策について」より抜粋）</p>

1 開 会

(内容省略)

2 教 育 長 挨 拶

(内容省略)

3 案 件

議長 本日で第3回の会議となる。前回の会議で施設の課題や情報提供について御意見を出していただいた。本日は、その内容を踏まえた上で、実地調査に向けて具体的に調査対象の施設を選定したいと考えている。

施設を選定するにあたっては、もう少しテーマを具体的に考えていく必要があるため、協議の前半では、重点審議事項2の理由書を確認しながら、「人づくり・つながりづくり・地域づくりの拠点」の捉え方について、ざっくばらんに意見を出していただいて、この会議ならではの定義づけを考えていきたいと思う。

まずは資料1と2について、事務局から説明していただきたい。

事務局より、資料について説明。（資料1・資料2）

議長 それでは、テーマに関連して「人づくり・つながりづくり・地域づくりの拠点」としての社会教育施設について、ポイントになる点や注目する点、強調したい点があれば、自由に御意見をいただきたい。

委員 「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」のどれかに重点を置いてもよいと考えるのがいかがか。

議長 審議事項に「人づくり・つながりづくり・地域づくりの拠点」とあるので、共通してあてはまる施設という捉え方で考えている。

委員 前回の会議では、キーワードとして「人の集まりやすさ」と「連携・協働」があげられていた。「人の集まりやすさ」には、物理面（施設）やソフト面（事業）など、様々なポイントがあると思うので、キーワードとしては面白いのではないか。

「連携・協働」はよく出てくるテーマだが、抽象的になってしまうことも多い。具体的に機関と機関、誰と誰、が「連携・協働」しているのかというところを掘り下げてみていく必要がある。

「人の集まりやすさ」に関しては、ただ単に人がたくさん来ればよいということではなく、質的な要因も考えられる。質的な要因も含め、幅を広げて捉えていくと、調査の内容も広がると思う。

議長 貴重な御意見を出していただいたと思う。集まりやすさには物理面とソフト面がある。

委員 講座に興味を持って「行ってみたい」と思わせる要素はソフト面、物理面には駐車

場などの要素が含まれる。

議長 「連携・協働」については、実質的にはキーパーソンの話になると思う。そして、単に人が集まればよいということではないので、ソフト面の質が大事になる。

委員 三沢市公民館では、指定管理者制度を導入している。その活動の中で、住民が講師になって講座を開催する「市民企画講座」をやっているが、参加者の固定化が進んでいるように感じる。そこに、特に若い世代が関わっていくようにできないかと考えている。しかし、貸館の利用に空きが少なく、新規での活動の参加が難しい状況である。さらに駐車場の問題もあり、「人の集まりやすさ」という点では、なかなか難しい状況である。

また、「人の集まりやすさ」でいえば、徒歩圏内の町内会の集会所も活用していればよいのではないかと考えている。ただ、現状は管理の問題から、住民が自由に使用できる状況ではない。市の図書館から本の貸し出しもあるが、地域の子どもたちが見られる状況にない。もう少し管理のあり方に幅を持たせて、住民が自由に使用できるようになれば、すぐ近くに集まれる場所が増えると思う。

議長 市民の企画する講座であっても、参加者が固定化され、若い世代や子どもたちが参加しにくい状況は、他にもあるのではないか。それは「人の集まりやすさ」と関係してくる話である。

委員 最終的には報告書をまとめることになるので、それを見越して協議を進めた方がよいと考えている。「人員不足」「資金不足」など、課題はいろいろ出てくると思うが、それだけではありきたりで、面白みに欠ける報告書になってしまう。なので、その施設の良いポイント、「人が集まる理由」「売りになっている取組」などを取り上げていきたいと思っている。その中で共通する要素と個別の要素を分けてまとめると、多くの施設にとって参考にすることができると思う。

良いポイントを見つける上で、今回は施設が対象なので、「人が集まっている」施設を中心に調査を進めてもよいのではないか。そこには必ず理由があると思う。特にどのような人が集まっているのかについて、掘り下げる必要があると思う。町会の集会所であれば歩いていける人、駐車場の整備された中央の施設であれば、広い圏内の人たちを対象にしていると思うので、どのような人たちが集まり、どのような役割を担っているのかを、うまく手分けして調査すればいいと思う。

さらに運営面にも着目したいと考えている。指定管理者制度を導入している施設における館長などの役職の決め方、また公民館や図書館など、施設ごとの違いも含めて調査できればよいと思う。

議長 調査の進め方について、貴重な御意見をいただいた。まずは課題と特色について、共通と個別に分けて整理する。また、人が実際に集まっているところを調査し、その理由を分析する。さらに管理体制の違いで分析する。

委員 これからの調査に関して、「人が集まっている施設」を対象にする方向で進めていけばいいと思う。集まる理由としては、単純に「楽しいから」「来やすさがあるから」などが考えられ、一方で課題として「駐車場の問題」などがある。

五所川原中央公民館では、不登校や障がいを持った子どもやその親を対象にした支

援事業をやっている。対応に関して苦労している方もそれなりにいると思うが、相談できる場所がないのが実情である。そういった人たちの課題に応える取組に対して興味がある。

議長 調査の視点に関連する御意見をいただいた。「人が集まっている」理由に関して、「楽しさ」「気楽さ」だけでなく、「困っている人の課題」への対応という視点も含めて重要だと思う。

委員 以前、小学生から一般まで各世代が出場する陸上の大会を見る機会があった。その大会に出場しているクラブの1つでは、年配の方と一緒に若い世代の指導者も活動していて、若い世代の指導者はその地域で選手として活動した後で、指導者となっている。選手としての引退後は、指導者として関わることができるいい循環ができていると感じている。私が現在暮らしている地域では、スポーツ少年団が小学校で終わってしまう。そのため、中学、高校と進学するたびに違う指導者に教わることになる。今回紹介した陸上大会では、幅広い世代が指導に関わっていける仕組みができている。今回の調査において、どのように人がつながって集まっているのかという部分にとっても興味がある。

議長 重要な意見をご指摘いただいた。若者が自然と活動に関わることができており、いい形で回っている。そしてそのことが地域の人づくりに結びついている。このような形が公民館などの施設にもあてはまるのかどうかという視点は大事だと思う。

委員 公民館の利用に関しては、平日と休日を分けた場合、平日は学校や仕事があるため、高齢者の利用が多いと思う。私の近所でも高齢の方がよく利用している。私が今回の調査で注目したいポイントは、休日でも人が集まっている施設の講座や企画について掘り下げて調べてみたいと考えている。

議長 平日は高齢者の方が公民館を利用されていると思うが、休日に子どもや若者がたくさん集まっているとすれば、その企画力が大事になってくる。

議長 ここまでのところで整理すると、「人の集まりやすさ」には、物理面とソフト面がある。ソフト面では「楽しさ」「来やすさ」「困っている人の課題に対応」など要素が考えられる。市民企画講座では、参加者の固定化が見られ、新規の参加者があまり見られない。そういった意味で、実際に若者が参加して「いい形で回っている」施設や地域がおもしろい。また休日に子どもや若者が集まっている施設があれば、その施設の企画力やその理由を調査し、分析すればいいのではないかという部分で御意見をいただいた。

議長 ここまでの話の中で質問などがあればお願いしたい。

委員 対象施設についてだが、今回の調査にスポーツ施設は含まれるのか。スポーツであればかなり幅広い年齢層の人たちがやっていると思う。

事務局 前回までの話で、博物館については生涯学習課の管轄ではないが事業に関して参考ができる部分があれば調査の対象に含めるとしていた。同様の考え方であれば、

調査の対象に含めてもよいと考えるがいかがか。

委員 スポーツを軸にして、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」に関わっているのであれば、博物館と同様に調査の対象に含めてもいいと思う。

議長 私個人としても、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」というところにあてはまるのであれば、積極的に外す理由はないと考える。ただ、イベント以外の取組を調査することになる。

議長 スポーツ施設も該当するものがあれば調査の対象に含めるということでよいか。
⇒反対意見はなく、スポーツ施設も調査の対象に含めることとした。

議長 「連携・協働」についても協議の必要がある。御意見があればお願いしたい。

委員 以前、三沢航空科学館に事務局を置く団体で委員として関わっていた際に、ワールドカフェを体験したことがある。三沢航空科学館では、たくさんの団体が活動をしていて、ワールドカフェを通じて、多くの視点や課題、地域に対する思いなどについて、高校生や女性関係者も含めて話し合うことができた。ワールドカフェで違う立場の人達と交流できたことは大きな刺激を受けた。

また、三沢市の市民提案事業の委員を務めているが、私と同じ年代の人たちが関わる小さなコミュニティがたくさんできてきている。しかし、資金面での支援はあるが、それぞれの活動をつなぐ働きが弱いと感じている。そのバックアップができれば、地域づくりがより一層深まっていくと思う。

議長 大変重要な御意見をいただいた。「連携・協働」に関して、一緒に活動する機会を通じた「つながりづくり」の促進、地域の連携を支援する取組みも大事である。

委員 三沢航空科学館の活動は興味を持ってみている。NPOの団体が指定管理者となっていて、航空という分野だけにとらわれず、施設を有効活用して、幅広い分野の活動を手がけている。その1つがワールドカフェの開催であったりするが、指定管理者ならではの幅広い活動につながっているのではないかと思う。

議長 三沢航空科学館では指定管理者のメリットを活かして、「連携・協働」に取り組んでいる。

委員 ワールドカフェ等の手法を活用した他団体との交流に関しては、NPOの方がノウハウをたくさん持っているのではないか。単なる管理体制の違いだけではなく、その団体が持っている特徴が出てきている。

「連携・協働」に関しては、困っている人が相談する場所がないという話が先ほどあったが、「行きやすさ」という視点を考えると、多様な主体とのつながりがなければ、「バリアフリー」のような状態をつくることは難しいと思う。NPOや福祉部局との連携が深まれば、支援が必要な人への利用促進につながっていくのではないか。

「認知症サポーター」のように市民に関わってもらおう事業との連携についての調査にも興味がある。

委員 生活する上で困っている人たちのニーズに応える、あるいは振り向かせることができる公民館の役割は大きいと思う。

議長 他に御意見があればお願いしたい。

委員 各地でいろいろな活動が行われていると思うが、その活動がどの程度認知されているかが、人の集まりに大きな影響を与える。実際に多くの人が集まっている施設の周知方法を調査することで参考にできる部分が出てくると思う。

委員 公民館に行くと、様々なポスターが貼られている。それだけ幅広い活動が行われているが、公民館主催の事業と外部団体の事業に分けられ、そこに多少の温度差が感じられる。地縁の団体であれば、手厚いサポートを受けている場合もあり、公民館を利用している団体について調査をすると、そういった部分も見えてくるのではないかな。

最近では、地域の団体の活動が弱まってきている。昔であれば敬老会など各地域で活動していたが、それがまとまって活動するようになると、それまで全く関わりのなかった施設を利用するケースも見られる。普段から施設との連携があれば、それぞれの団体の継続した施設の利用につながると思う。

議長 それぞれの団体の継続した施設利用についても「連携・協働」の1つの視点として考えることができる。

議長 私の意見としては、社会教育行政、社会教育関係の職員の活動を評価できればいいと考えている。プラスの評価をしていかなければ、社会教育行政はますます縮小していくのではないかな。そういった意味でも、いろいろ御意見をいただいているが、社会教育行政が頑張っている部分を見ていければよいと考えている。

(休憩)

議長 続いて、調査の候補先について御意見をいただきたいと思う。資料について、事務局から説明していただきたい。

事務局より、資料について説明。(資料3-1~3-5)

議長 必ずしも資料の中から候補先を選ぶということではないので、参考にしながら御意見をいただければと思う。ここにあげられている施設は、「人が集まっている施設」に該当すると思うので、前半の協議であげられた視点を踏まえた上で選定を進めていくことができればと思う。

委員 三沢市立図書館の事業には、お弁当のデザイナーとして関わった。市内の飲食店にお弁当の内容と価格の提案と障害者の方のクッキーやケーキづくりには、地域の高校生も加わって、キャリア教育の一環として取り組んだ。

三沢航空科学館は、NPOが幅広い活動を継続して行っている。「人づくり・つながりづくり・地域づくり」という視点に絡めて考えると重なる部分がそれなりにあると考える。

議長 三沢航空科学館は、博物館と同じ分類になり、調査対象としては問題ない。調査の方法としては、地域単位で三沢の施設の全部を見るというやり方もある。

その他、意見があればお願いしたい。

委員 六戸町中央公民館に興味がある。20～40代の若者をターゲットにしている部分が興味深い。実際に多くの若者を集めているならば、その他の施設でも参考にできる部分があると思う。

議長 前半の協議の中でも、若者の参加に関係する話があったが、そこにつながる話だと思う。

議長 それでは、資料3-1の公民館から順に検討していきたいと思う。全部で9つの候補があげられているが、御意見があればお願いしたい。

委員 沖館市民センターに関しては、施設も新しく、設備も充実していて、地域住民だけでなく遠方からの利用も見られる。ただ、多くの人々の利用という視点で青森市内を見れば中央市民センターが一番多いと思う。施設は古いが、立地がよく、いろいろな団体の利用が見られる。青森市内で活発に活動している公民館だと中央市民センターのイメージが強い。

議長 都市部の公民館という視点で考えれば、沖館市民センターと中央市民センターのどちらかになると思うが、いかがか。

⇒中央市民センターを候補の対象とすることとした。

議長 五所川原中央公民館についてはどうか。「困っている人たちの課題への対応」という視点にあてはまると思う。

⇒特に反対意見はなく、調査の対象とすることとした。

議長 むつ市中央公民館についてはどうか。「下北ジオパーク」を通じて首長部局との連携があると聞いている。

⇒特に反対意見はなく、調査の対象とすることとした。

議長 八戸市立根城公民館についてはどうか。青年世代を対象として組織的な学習機会を提供する「青年学級」を40年以上継続して実施している。受講生は入れ替わっているということでもいいか。

事務局 受講生は入れ替わっている。また、講座を通しての仲間づくりが進み、OB会が結成され、関わるようになっている。

議長 この取組に関しても若者の参加につながる部分があると思う。

⇒八戸市根城公民館を調査の対象とすることとした。

議長 続いて、資料3-2の図書館について検討したいと思う。御意見があればお願いしたい。

委員 つがる市立図書館に興味がある。カフェについて少し詳しく聞きたい。

委員 図書館のエントランスにカフェが併設されていて、借りた本を読むことができる。待ち合わせにも利用しやすい。

議長 つがる市立図書館は前回も話題にあがっていた。調査の候補にするということではどうか。
⇒特に反対意見はなく、調査の対象とすることとした。

委員 三沢市立図書館に関しては、学校に司書を派遣して学校の中の図書館作りに取り組んでいる。「学校との連携」という視点も含めて調査できると思う。

議長 三沢市立図書館を調査の候補にするということではどうか。
⇒特に反対意見はなく、調査の対象とすることとした。

議長 つがる市立図書館と三沢市立図書館はともに指定管理者制度を導入している図書館である。できれば直営の図書館も調査対象としたい。

事務局 八戸市立図書館は直営で幅広い活動を行っている。また南郷図書館は指定管理者を導入していて、そういった部分の連携が見られる。さらに学校への司書の派遣も行っている。

議長 八戸市はブックセンターもオープンし、地域ぐるみで「本のまち八戸」の推進に取り組んでいる。八戸市立図書館を調査の対象に加えてどうか。
⇒特に反対意見はなく、調査の対象とすることとした。

議長 続いて、資料3-3の公民館・図書館以外について検討したいと思う。御意見があればお願いしたい。

委員 十和田市現代美術館に関しては、地域と連携しながら通年で企画を実施し、人が絶えず集まっている印象がある。

議長 十和田市現代美術館を調査の候補にするということではどうか。
⇒特に反対意見はなく、調査の対象とすることとした。

議長 十和田市コミュニティセンターについてはどうか。管理の面で見ると、もともと公民館だった施設が首長部局に移管している事例は十和田市しかない。そういった視点からも調査対象としていいと考えている。

委員 コミュニティセンターとしては、南・東・西の3つある。また十和田市の中心部に市民交流プラザ「タワーレ」がある。「タワーレ」に関しては、地域住民の交流の場として活発な活動が行われている印象がある。

議長 十和田市と三沢市に候補が複数あげられている。この2つの自治体については重点的に調査する方法もあると思う。

議長 それでは、十和田市コミュニティセンターと協議の前半で話題にあがっていた三沢航空科学館を調査の候補とすることでいいか。
⇒特に反対意見はなく、調査の対象とすることとした。

議長 資料3-5の实地調査希望調査票についてはどうするか。

事務局 本日の協議で实地調査の候補先についてはかなり絞ることができたが、まだ確定はできていない状況なので、次回の会議で各委員の希望を把握した上で、調査先の割り振りを決めていきたい。

議長 公民館について、もう少し検討したい。都市部の公民館が多いので、農村部の公民館を調査の対象に加えたい。

委員 浪岡野沢公民館を調査対象としてはどうか。活動に関する情報は比較的多く入ってくる印象がある。

議長 浪岡野沢公民館に関しては、以前、講演に参加した際に小学生から高齢者まで幅広い世代間交流が行われていると聞いた。浪岡野沢公民館を調査対象に加えてもよいか。
⇒特に反対意見はなく、調査の対象とすることとした。

議長 中南の施設が調査の対象に入っていないが、情報提供いただける施設があればお願いしたい。
⇒次回までに情報提供があれば加えて検討していくこととした。

委員 協議の前半で話題になったスポーツ施設については、調査対象に加えるか。

議長 スポーツ施設についても、次回までに情報提供があれば加えて検討していくこととする。

協議の結果、以下の施設を实地調査の候補先として選定した。

- ①青森市中央市民センター ②青森市浪岡野沢公民館 ③五所川原市中央公民館
- ④六戸町中央公民館 ⑤むつ市中央公民館 ⑥八戸市立根城公民館
- ⑦つがる市立図書館 ⑧三沢市立図書館 ⑨八戸市立図書館
- ⑩十和田市コミュニティセンター ⑪十和田市現代美術館 ⑫三沢航空科学館

議長 案件(1)については以上で終了となる。続いて、案件(2)その他ということで、今後のスケジュールについて事務局から説明をしていただきたい。

事務局より、今後のスケジュールについて説明。(資料5・資料6)

4 閉会

(内容省略)